

茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和5年9月調査）

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケート形式で情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。
 この度、令和5年9月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1 調査結果

～ 景気判断DIは現状が3期ぶりに50を下回った～

☆ここがポイント

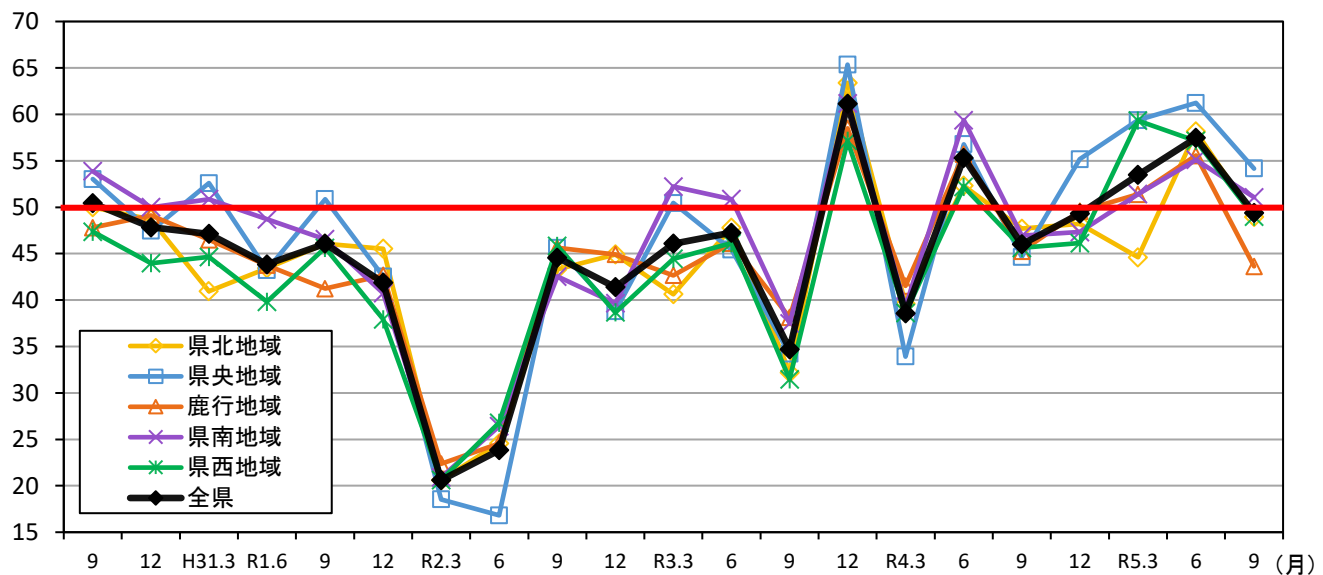
区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI(Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気 directional (景気が上向きか下向きか) を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出している。 <参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き
	9月調査結果	前回調査との差	9月調査結果	前回調査との差	
県全体	49.4	△8.1	51.6	△1.9	
県北	48.9	△9.3	50.5	△5.6	
県央	54.2	△7.0	51.6	△4.5	
鹿行	43.6	△12.0	50.0	△1.7	
県南	51.1	△4.0	54.3	+3.3	
県西	49.0	△8.1	51.5	△1.1	

○県全体の景気判断DIは、現状が3期ぶりに50を下回り、先行きが前回調査に引き続き50を上回った。

○地域別では、県南の先行きのみ前回調査を上回った。分野別では雇用関連の現状、企業関連の先行きが前回調査を上回った。

○ウォッチャーからは、商品等の値上げや新型コロナウイルスに関するコメントが多く寄せられた。

(DI) 景気現状判断DIの推移（地域別）



〔調査の概要〕

- ・ 調査客体数 … 県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに50名、計250名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期（6、9、12、3月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間：令和5年9月5日から20日まで）
- ・ 回答率 … 95.2%（250名中238名から回答）

（地域区分）
 県北地域：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
 県央地域：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
 鹿行地域：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
 県南地域：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
 県西地域：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

〈参考〉

現状判断回答構成比

調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
回答					
良くなっている	3.2%	4.9%	8.1%	8.7%	2.5%
やや良くなっている	20.9%	24.9%	29.7%	37.8%	25.2%
変わらない	40.8%	39.3%	36.6%	32.0%	44.5%
やや悪くなっている	27.0%	24.2%	19.4%	17.8%	22.7%
悪くなっている	8.2%	6.7%	6.2%	3.7%	5.0%

先行き判断回答構成比

調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
回答					
良くなっている	1.1%	1.8%	8.4%	5.0%	2.9%
やや良くなっている	23.0%	18.2%	32.6%	27.4%	24.8%
変わらない	43.6%	47.0%	38.1%	46.5%	51.3%
やや悪くなっている	24.5%	26.7%	15.4%	19.1%	17.6%
悪くなっている	7.8%	6.3%	5.5%	2.1%	3.4%

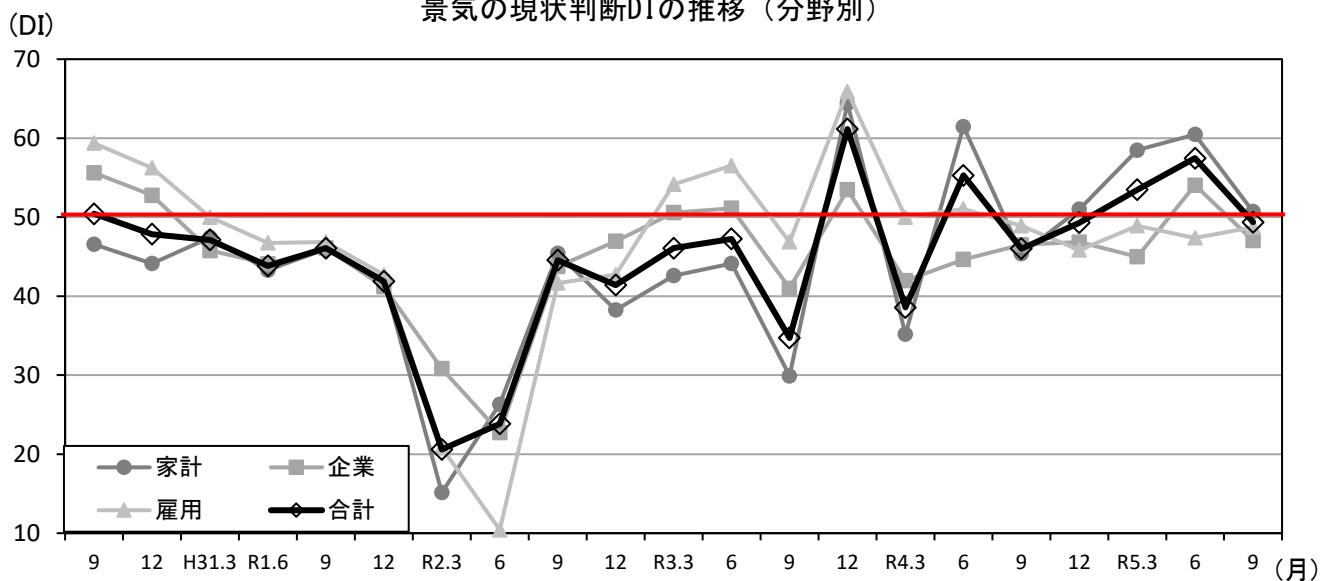
2 分野別の動向

(1) 現状判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より9.8ポイント低下したものの、4期連続で50を上回りました。
 企業動向関連DIは、前回調査より7.1ポイント低下し、2期ぶりに50を下回りました。
 雇用関連DIは、前回調査より1.4ポイント上昇したものの、5期連続で50を下回りました。

調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
分野					
合計	46.0	49.3	53.5	57.5	49.4
家計動向関連	45.4	51.0	58.5	60.5	50.7
小売関連	40.8	44.6	49.6	58.6	47.4
飲食関連	41.3	65.5	68.1	69.4	56.9
サービス関連	51.6	53.0	65.1	59.1	50.8
住宅関連	36.1	50.0	52.8	63.9	59.4
企業動向関連	46.5	46.8	45.0	54.1	47.0
農林水産業	37.5	40.6	28.1	46.9	40.6
製造業	46.3	48.4	46.0	55.9	45.5
非製造業	49.2	46.1	47.7	53.6	50.9
雇用関連	48.9	45.8	48.9	47.4	48.8

景気の現状判断DIの推移（分野別）

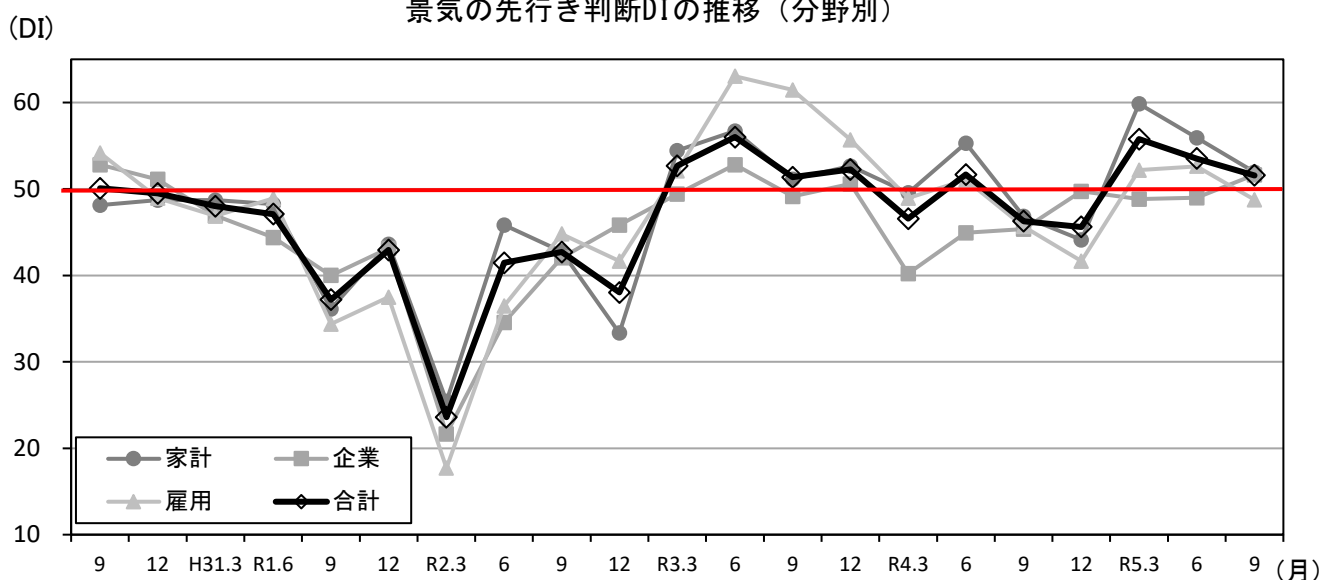


(2) 先行き判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より4.0ポイント低下したものの、3期連続で50を上回りました。
 企業動向関連DIは、前回調査より2.6ポイント上昇し、7期ぶりに50を上回りました。
 雇用関連DIは、前回調査より3.8ポイント低下し、3期ぶりに50を下回りました。

分野	調査年月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月
合計		46.3	45.6	55.8	53.5	51.6
家計動向関連		46.8	44.1	59.8	55.9	51.9
小売関連		40.4	41.4	54.9	53.0	45.6
飲食関連		52.5	47.6	66.7	65.3	61.1
サービス関連		51.3	45.9	63.7	56.3	54.2
住宅関連		44.4	41.7	52.8	52.8	59.4
企業動向関連		45.3	49.7	48.8	49.0	51.6
農林水産業		34.4	46.9	37.5	43.8	53.1
製造業		48.4	48.4	49.4	50.0	53.2
非製造業		43.5	52.3	50.8	49.1	49.1
雇用関連		45.7	41.7	52.2	52.6	48.8

景気の先行き判断DIの推移（分野別）



3 ウォッチャーのコメント抜粋

(1) 県北地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは48.9となりました。前回調査より9.3ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回りました。

- ・ (レストラン) 客数・客単価とも大きく変わらず、売上げも前期に比べては伸びているが、3か月前と比べると伸び率は横ばいであるため、変わらないと判断した。
- ・ (建設業) 新築住宅に関する受注に繋がる相談や打合せが少なくなってきたため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは50.5となりました。前回調査より5.6ポイント低下したものの、横ばいを表す50を3期連続で上回りました。

- ・ (商店街代表者) アフターコロナの後、物価高騰が景気を冷やしていると考え。少し経てば落ち着くであろうと考えるため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (求人広告) 10月から最低賃金上がることで企業・店舗側の人件費に関してはよりシビアになることが予想され、募集数の減少、採用のハードルが高くなることにより採用市場は鈍化すると思われるため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (小売業(酒類)) 買う物をじっくり考えて購入している客が増加しているように感じる。
- ・ (製造業(精密機械器具)) 以前に比べ、部材の難入の状況は回復傾向にあると考える。

(2) 県央地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは54.2となりました。前回調査より7.0ポイント低下したものの、横ばいを表す50を4期連続で上回りました。

- ・ (都市型ホテル) 現在の予約状況は夏頃から伸びている。客の声は、久々に宴会をしたいからの声が多く予約受注に繋がっているため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (製造業(一般機械器具)) 車関係では半導体不足の影響が続いており、二次下請け三次下請けまでの仕事量が無い状況のため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは51.6となりました。前回調査より4.5ポイント低下したものの、横ばいを表す50を3期連続で上回りました。

- ・ (求人開拓員) 当所利用者の減少傾向に加え、求人数の増加も見受けられるため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (観光名所) 経費増加が見込まれ利益率が減少すると予想されるため、景気はやや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (運輸業(道路貨物運送業)) 運送事業者としては、燃料費高騰と拘束時間削減のための高速利用、そしてドライバー確保のための賃金見直しと、三重苦となっている。また、物価高騰による車両価格の値上げや納車遅延が更に追い打ちをかけ、立ち行かなくなる事業者が出てくると思われる。
- ・ (公共職業安定所) 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受け、ホテル・観光業では客足が戻りつつあり、人手不足が顕著であるとの話を聞く。60歳以上の求職者が増加傾向であり、物価高の影響もあり、年金だけでは生活ができないといった声も耳にする。

(3) 鹿行地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは43.6となりました。前回調査より12.0ポイント低下して、横ばいを表す50を3期ぶりに下回りました。

- ・ (製造業(金属製品)) 原材料の高値が続き生産活動が活発でないため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (衣料品販売店) 実店舗、ネット販売ともに売上げが落ちているため、悪くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは50.0となりました。前回調査より1.7ポイント低下して、横ばいを表す50となりました。

- ・ (農業関係者) 物価高の影響は引き続き続いており、今後もメーカーによる値上げ品目が多数予定されており、為替による円安や原油高などによる生産資材の生産コストを農産物販売に価格転換できない状況が続いているので、今後の景気判断についても変わらないと判断する。
- ・ (公共職業安定所) 大企業において、求人申込の状況がやや良くなっているが、中小企業を含め、全体としてみると今年度の傾向に大きな変化はないため、変わらないと判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (理・美容店) 当店でも材料費、光熱費の高騰により10月から価格改定して値上げすることになった。
- ・ (求人開拓員) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、宿泊施設やゴルフ場での求人が増えている。特に調理担当者、清掃担当者、接客担当者の不足が多いように思う。

(4) 県南地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは51.1となりました。前回調査より4ポイント低下したものの、横ばいを表す50を3期連続で上回りました。

- ・ (スーパー) やや良くなっていると判断した。値上げが続き、ディスカウント主体とする当店としては、客数、売上げともに伸びているのでそう感じるが、本当は経済的に苦しいのでディスカウントスーパーに集まっているのかもしれない。
- ・ (民間職業紹介業) 受注減少のため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは54.3となりました。前回調査より3.3ポイント上昇して、横ばいを表す50を3期連続で上回りました。

- ・ (ゴルフ場) 現在と比べれば明るい話題も聞くようになり、先の予約もかなり入ってきており、11~12月の土日などは予約がもう埋まっている日もあるので、やや良くなっていると判断する。
- ・ (製造業(飲料)) 年末に向けて、客も各イベントの準備や集まりが増えているため、やや良くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (小売業) コロナ禍で、客の消費は近場で短時間で済ますという行動が見られたが、最近では行動制限もなくなり、若者を中心に都心まで買物に行くという消費行動が見られる。一方、年配・ファミリー層を中心に夜遅くの消費を敬遠する傾向は変わらず、夕方以降の売上げが伸び悩んでいる。
- ・ (レストラン) 3世代の会食の機会が確実に戻りつつある。1組単位の消費額も多いし、滞在時間も長い。今後も家族単位の利用や人数の増加が期待できる。

(5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは49.0となりました。前回調査より8.1ポイント低下して、横ばいを表す50を3期ぶりに下回りました。

- ・ (人材派遣業) 製造や物流関係の企業では繁忙時期を除いてもやや依頼が減っているが、観光やサービス業では依頼が少しずつ増えてきたため、全体的には変わらないと判断した。
- ・ (金融業) 依然として電気代は高止まりしている。また、ガソリン代を含めた燃料費が高騰し、運送業が多い県西地区において、個人及び法人の資金繰りを圧迫している状況であり、短期的にはやや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは51.5となりました。前回調査より1.1ポイント低下したものの、横ばいを表す50を3期連続で上回りました。

- ・ (旅行代理店) 2020年からのコロナ禍より、観光、旅行関連はやっと上向きの兆しが出てきており、先行きは期待が持てると思うため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (製造業(化学工業)) 主要である商品の景気が低迷しており、現状では回復の兆しが見られない。少なくとも今年度中の回復はないと予想しているため、変わらないと判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (家電販売店) 若干数ではあるが、家電選びの際に高付加価値商品を選ぶ客が出てきている事から、家庭の収支状況にもよるが消費行動に変化が見られる。
- ・ (製造業(化学工業)) 全体としての景気は良くない状況が続いているが、Chat GPTなどの生成AI系に使用される部材の需要はあがってきている。

(6) 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

①「値上げ、高騰、上昇」に関するコメント 180件 (県北:38 県央:30 鹿行:37 県南:45 県西:30)

- ・ (スーパー) 今後も商品の値上げは予定されているが、前年比売上げ、前年比客数が同等レベルで推移している流れはしばらく続くと予想されるため、変わらないと判断する。
- ・ (製造業(窯業・土石製品)) あらゆる購入品の値上げにより利幅が減っており、原油や光熱費の高騰も先を見通せないため、やや悪くなっていると判断した。

②「新型コロナウイルス」に関するコメント 53件 (県北:7 県央:17 鹿行:13 県南:10 県西:6)

- ・ (商店街代表者) 新型コロナウイルスに関する補助金の返還時期やインボイス制度実施時期に合わせて廃業や倒産が増えてきている。
- ・ (洋食食堂) 新型コロナウイルスに対する不安も少しずつ減り、飲食の席も増えると思うため、やや良くなっていると判断する。

③「5類(感染症)」に関するコメント 19件 (県北:3 県央:6 鹿行:7 県南:2 県西:1)

- ・ (自動車販売店) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、人の動きが活発になり購買意欲、消費意欲が上がってきているため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (スーパー銭湯) 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されてからは、来店者数と客単価ともに昨年と比べ高水準を維持している状況が現在も引き続いているため、変わらないと判断した。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページを御覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>